

タスク9 読む力とは？

皆さんがイメージする読解の授業とはどんなものでしょうか？英語の時間の長文読解でしょうか？英字新聞の読解でしょうか？今日はそのような読解のための読解授業から少し離れて、生活する（生きる）ための「読む力」を考えてみましょう。

現代社会においては、日本語学習者であっても、日本人であっても社会生活をする上で「読む」（文字から情報を読み取っていく行動）は必要不可欠なものです。読解指導の方法について考える前に、「読む力」とはなんなのか、考えていきましょう。

練習1：私たちの生活で「読む」という行為の必要な場面はどんな場面でしょうか。1日の生活を思い出しながら整理してみましょう。（注：レストランの「メニューを読む」といった文章になっていないものもあるはずです。）

「読む」場面

例：朝、電車の中で友人からのメールを読む。（速）

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

練習2：練習1で考えた「読む場面」について、以下の3点を考えてみましょう。

- 1) 日本人と日本語学習者では違いがあるか、どんな違いか。
- 2) 初級学習者と上級学習者では違いがあるか、どんな違いか。
- 3) 国内と海外の学習者では違いがあるか、どんな違いか。

- ② 教師が音読し、学生は目で追う(黙読2)
- ③ 教師が音読し学生がリピートする(音読1)
- ④ 学習者が交代で読む(音読2)

+教師のすぐあと(1秒後)について学習者が追うように音読する。(シャドーイング)

これらの指導法にはすべて一長一短があり、そのため、教師は必要と目的に応じてその指導法を使い分けています。

◆次の A~G についていくつかとりあげてグループやペアで話し合い、あなた自身は読解指導をどのように考えるか、意見を交換してみてください。それぞれの意見についてできるだけ批判的な視点でとらえるようにしてみてください。

A 教師の先導は正しい発音が耳に残り、発音とつづりの関係がわかるよい練習である。

B 教師が先導すると読み方は教師のペースで進められ、学習者のペースではなくなる。そのため、意味把握の時間がとれず、理解のできない文を見直す機会がなくなる。

C 学生が交代しながらよんでいく方法は、他の学生の悪い発音が耳に残るだけであるし、他の学生が読んでいるときは聴いていないので効果的ではない。

D 音読では学生の注意力は内容の理解ではなくて発音にむけられてしまうので、効果的ではない。

E 現実の「読む」行為では音読はほとんどないのだから音読指導は不自然さを強いていることになる。

F 一人で読むより2人以上で一緒に読む協働活動を通して(ピアリーディング)読むほうが理解を深めることができる。

G 日本語クラス以外では教師の助けなしに一人で理解していかなければならないのだから教師の先導はどちらかといえば阻害要因になる。

練習3:「理解の確認」は、教師からの発問行為によって行われることが多いと思います。その目的には大きく2つのものがあります。一つは内容理解を助けるため、もうひとつは大事な部分についての注意の喚起です。方法にも様々な方法が考えられます。グループワークで学習者間のコミュニケーションを通して答えを見つける方法や、学生に答えを書かせ、確認するオーソドックスな方法まで様々です。

◆さきほどの L2『J501』の本文を読んで、理解を確認するための方法を考えなさい。教師中心の Q-A シートでもいいです。学習者間のコミュニケーションを中心にしたタスクシートでもいい